

脳梗塞にご用心



医仁会武田総合病院
脳神経外科

部長
川西昌浩

若い患者さんもいまや 珍しくない疾患

数年前に、あるロックグループのメンバーが脳梗塞で活動を休止したことがありました。幸い半年ほどで復帰し、現在も変わらぬ人気を誇っているのはサスガです。ところで当時、そのメンバーが32歳の若さで脳梗塞を発症したという事実には衝撃を受けた方も多いのではないのでしょうか。

脳梗塞はくも膜下出血、脳内出血とともに「脳卒中」と称される疾患。脳内動脈の閉塞（つまりまるごと）や狭窄（狭まること）によって血流が低下し、酸素や栄養素の供給が少なくなり、脳組織が壊死するというもので、だいたいつぎの三種類に分けられます。心臓などでできた血栓が脳内の血管をつまらせる脳塞栓症。脳内の細い血管がつまるラクナ梗塞。そして、脳内また

は頸部の太い血管が閉塞・狭窄するアテローム血栓性脳梗塞。一つ目は不整脈や弁膜症に伴うことが多いのですが、二つ目と三つ目は喫煙や飲酒、ストレスなどによる動脈硬化が原因です。

場合によっては 心筋梗塞併発の心配も

なかでも最近、増加傾向にあるのがアテローム血栓性脳梗塞です。これはおおむね突然発症し、睡眠中に起こることも多くあります。初期症状は体の片側がマヒしたり、言葉が出なくなったり、視界の一部が欠けたり、眠れなくなったりとさまざまです。重度の場合は意識がなくなり、昏睡状態に陥ることもあり、軽度でも放っておくと状態が悪化し、後遺症が残る恐れもあるのです。ふだん感じたことのないこれらの症状を感じたときにはすぐに専門医の診察を受けてください。また、この脳梗

塞を発症した人は心筋梗塞にかかる可能性もあるため、その点も注意が必要です。

再発を抑え、体に負担の 少ないステント留置術

アテローム血栓性脳梗塞の、特に頸動脈の狭窄の治療に近年大きな変化をもたらしたのが、ステント留置術です。足の付け根の動脈から挿入したカテーテルを通して、頸動脈の狭窄部分にステント（金属性の網状の筒）を留め置き、それを遠隔操作で拡げることで血管を正常に近い径に戻すという治療法です。内科的治療に比べて再発が抑えられ、外科手術より体への負担が少ないことから術後の安静期間や入院期間の短縮もはかれます。昨年からは健康保険も適用されるようになり、当院でも多くの方がこの治療を受けられています。